

科目名(Subject)	民法研究 I (基本) (Civil Law I (Basic))		
単位数(Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	岩本 尚禧 (IWAMOTO Naoki)	研究室番号 (Office)	516
Office Hours	適宜 (事前にメールにて連絡すること)		
<p><b>1. 授業目的・方法(Course objective and method)</b></p> <p>(1) 授業の目的：この授業では、法律行為について理解を深め、法律行為に際して必要とされる「能力」の問題を研究します。この授業における法律行為としては、特に契約や遺言の作成を念頭に置いています。さらに言えば、高齢者の消費者被害や認知症に罹患した高齢者が作成した遺言の有効性について検討します。</p> <p>(2) 授業の方法：この授業で、報告者の報告に対して質疑応答するゼミ形式にて行われます。</p> <p><b>2. 達成目標(Course Goals)</b></p> <p>①高齢者と法律行為の関係を学び、民法の財産法と家族法を連動させて理解できるようになる。 ②現代の社会的経済的状況が民法の解釈・制度運用に及ぼす影響を理解できるようになる。</p> <p><b>3. 授業内容(Course contents)</b></p> <p>・各回の授業内容は以下の通りです。</p> <p>第01週 法律行為①：基本原理とその歴史 第02週 法律行為②：「能力」と「行為」の関係 第03週 契約①：問題の確認 第04週 契約②：法律行為と意思表示 第05週 契約③：高齢者被害者の類型把握 第06週 契約④：高齢者の消費者被害 (その1) 第07週 契約⑤：高齢者の消費者被害 (その2) 第08週 契約⑥：制度設計の検討 第09週 遺言①：問題の確認 第10週 遺言②：具体的事例の検討 第11週 遺言③：鑑定 - 法律専門家と医療専門家の協働 - 第12週 遺言④：民法と神経科学 第13週 遺言⑤：清明期と遺言能力 第14週 遺言⑥：制度設計の検討 第15週 総括：高齢化社会を見据えた法の在り方について -</p> <p><b>4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)</b></p> <p>・高齢者に関する事件や事故 (認知症者の自動車運転やオレオレ詐欺など) に関心を持ち、これらに関連する各報道に日頃から目を通すこと。</p> <p><b>5. 使用教材(Teaching materials)</b></p> <p>各回の使用教材・参考文献等に関しては、授業の開始時に説明します。</p> <p><b>6. 成績評価の方法(Grading)</b></p> <p>・以下の2点から各割合に応じて評価します。</p> <p>①授業の出席率：40% ②授業の参加態度：60%</p>			

## 7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

- 秀 (100～90) : 相互に異なる問題領域から未知の問題点を発見し、その未知の問題に対して、既知の議論から説得的・論理的な解決策を導き出すことができる。
- 優 (89～80) : 相互に異なる問題領域から発見される問題点を理解し、その問題点に対して、既知の議論から説得的・論理的な解決策を導き出すことができる。
- 良 (79～70) : 相互に異なる問題領域から発見される問題点を理解し、その問題点に対して、既知の議論から解決策を導き出すことができる。
- 可 (69～60) : 相互に異なる問題領域から発見される問題点に対して、既知の議論から解決策を導き出すことができる。

## 8. 履修上の注意事項(Remarks)

民法の単位（民法基礎Ⅰ、民法基礎Ⅱ、民法Ⅱ、民法Ⅲ、民法Ⅳ）を全て履修しているか、それに相当する実力を備えていることが必要です。